雇用前に知る・関わる

学校見学会・合同企業説明会・職場実習
大分県立さくらの杜高等支援学校

〒870-0823
大分市東大道2丁目5番23号
TEL.097-543-1700

一般就労率93％以上「働く力」を育てる

県内で唯一、高等部のみの「さくらの杜高等支援学校」は、県の障がい者雇用率の底上げを目指し、2022年に開校しました。以来、県内の特別支援学校の一般就労に向けた取り組みを支えるセンター的機能も担っています。

大きな特徴は、地域の人や企業、ボランティアと連携しながら進める実践的なカリキュラム。3年間で約600時間に及ぶ職場実習や、本職の特別非常勤講師による専門的な授業、生徒が接客・販売・調理を行う「さくらSHOP」の運営などを通じて、高い社会性や職業スキルを育んでいます。


▲教頭 阿部 佳子さん

まずは知ることから「企業向け学校見学会」

生徒のリアルな姿を知ってもらうために開催しているのが、企業向け学校見学会です。当日は学校説明や校内見学（授業や「さくらSHOP」で働く様子、その後の振り返りなど※）、生徒と対話できる交流会を実施。日頃の様子に加え、就労への思いや将来の目標、人柄まで知ることができます。より具体的に雇用を考えたい場合は、毎年7月に開催される「合同企業説明会」も選択肢の一つです。企業ブースで生徒と直接やりとりできるため、採用に至らない場合も今後の検討材料になります。今年は41社、他の支援学校の生徒も含む約120人が参加しました。障がい者雇用が初めての場合も事前相談に対応しているため、不安なく臨めます。

次回の企業向け学校見学会は
11月26日（木）
日程が合わない場合は個別見学にも対応します。

※見学内容は学年やその時々によって若干異なります。

生徒・企業双方の理解を深める「職場実習」

職場実習は、生徒が企業に出向き、実際の仕事を経験する貴重な機会です。本校は1年次の半日3日間の短期実習から始まり、6日間、10日間と段階的に経験を重ねます。企業にとっても、生徒の適性を確認できるだけでなく、実習を通して職場環境や業務の手順を見直し、〝誰もが働きやすい職場づくり〟を考えるきっかけになります。

本校にはクリーン、流通・販売、調理の3コースがありますが、そこで培う力を生かせる仕事は幅広く、受け入れ企業の業種は問いません。実習前から終了後まで教員が伴走して困りごとや課題に対応し、雇用につながった後も支援機関と連携しながら3年間の追支援を行います。まずは気軽に学校へご相談いただくか、学校HPの「企業情報登録フォーム」からご登録ください。


さくらSHOP
クリーンコースの生徒は洗車を担当。「一生懸命働く姿に感動した」などの声が届くことも。


合同企業説明会
県内各地の特別支援学校の生徒が参加し、市内外の企業と直接交流します。


職場実習
どんな仕事を任せればよいか迷う場合は、学校に在籍するジョブ・コンダクターに相談可能。

雇用入れ体験

雇入れ体験で、受け入れの不安を解消しませんか

雇入れ体験の流れ

お近くの障害者就業・生活支援センター（なかぽつ）に相談
制度の内容や利用方法、受け入れに関する不安などを気軽に相談できます。

職場見学で職場環境や仕事内容を確認
なかぽつの職員が本人に同行。見学後、本人・企業双方が希望した場合は日程調整へ。

雇入れ体験（3～10日）
期間中、なかぽつ職員が職場を訪問。本人・企業双方から困りごとや不安を聞き、必要に応じて助言や調整を行います。

振り返り
終了後、本人・企業・なかぽつの三者で振り返りを行い、良かった点、課題点などを共有。その結果を、今後の雇用の検討や本人の就職活動に生かします。

終了後、企業・本人双方に奨励金が交付されます

雇入れ体験とは

県の事業である「障がい者雇入れ体験（職場実習）」は、障がい者雇用に取り組む企業と一般就労を希望する障がい者をつなぎ、実際の職場で一定期間、仕事を体験してもらう制度です。期間は最大10日間で、相談・申し込み窓口は、県内6か所の障害者就業・生活支援センター（なかぽつ）となります。

雇入れ体験は、採用を前提に本人を評価するものではありません。本人と企業がお互いを知り、「この仕事、職場で働き続けられるか」を確認するための機会です。その結果、採用につながる場合もあれば、双方が納得したうえで別の選択をする場合もあります。

業務の切り出しを見直すきっかけに

障がいのある人と実際に一緒に働くことで、「どのような業務を任せられるか」、「どのような配慮があれば力を発揮できるか」を企業自身が具体的に知ることができます。

企業にとっては、自社の業務の切り出し方や指示の出し方、職場の受け入れ体制を見直すきっかけになります。本人も自分に合った仕事かどうかを確認し、不安を軽減できます。

体験期間中は「なかぽつ」の職員も定期的に職場を訪問。本人・企業双方の相談に応じ、調整を行います。これにより、不安や課題を解決したうえで、採用を検討できます。

雇入れ体験で確かめたいこと

受け入れる側の工夫で、働きやすさは大きく変わります。
次のような点を振り返りましょう。

- ☑ 切り出した業務が本人に合っているか
- ☑ 勤務時間や作業量に無理がないか
- ☑ 通勤に配慮が必要か
- ☑ 指示の出し方や伝え方は適正か
- ☑ 相談役や声かけは十分か

体験を通して得た気づきは、今後の障がい者雇用に向けた準備として生かせます。一方で、実習中に見えてきた課題を踏まえ、勤務時間や業務内容、担当する仕事を見直すことで、雇用につながることも少なくありません。構えすぎず、〝雇入れ体験を受け入れてみること〟も障がい者雇用を考える一歩です。

取材協力：障がい者就業・生活支援センターたいよう

所長の安房竜矢さん、主任障害者職業カウンセラーの鷹居勝美さんに伺いました。

大分障害者職業センター コラム

企業のお悩みに「職」に特化した視点から伴走します

障害者雇用を進めたいけど、何から始めればいいのか分からない」。そんな段階から相談できるのが当センターです。関係機関と連携しながら、受け入れ準備から職場定着まで幅広くサポートします。支援は相談や情報提供にとどまりません。例えば業務の切り出しでは、社員へのアンケートや職場訪問を通して仕事を洗い出し、職務を組み立てます。タイミングが合えば、ぜひ他社の事例や悩みを共有できる「事業主支援ワークショップ※」へご参加ください。障害者雇用やメンタル不調による休職者の職場復帰など、自社の課題解決のヒントを得られます。

詳細はこちら

※年2回開催。日程はHPをご確認ください。